



もとはし つうしん 本橋通信

第49号
2024年9月

本橋Fαオフィス 電話:090-7909-2111/メール:rmotohashi0419@gmail.com

★★★★この本橋通信は、私とご縁のあった方に差し上げている個人通信です★★★★

ワカラナイなりにドル円(為替動向)を考える…

皆さまこんにちは。本橋通信第49号をお届けいたします。今月もどうぞ最後までお付き合いください。8月初旬の株式市場の混乱への対処は、先の号外@8/5の通り「メディアに距離を置き、PCをOff」で！とは言え、いつも解らないながらに気になることがあります。ドル円の為替市場:これからどうなる？です。

この数年、特に22年は米国ではインフレ退治にと米中銀FRBは5%台まで利上げを続ける一方、日銀はじーと静観し低金利を維持した結果、金利差は大きく拡大、これに呼応するように円安が進行…そして時に行き過ぎると円買い介入！で少々円高に戻されつつも、また円安へ…との流れが繰り返されています。

その都度、日米金利差や景気動向、短期筋の投資家(意味良くわからない)、購買力平価では過剰な円安、国際収支がどうのと専門家による解釈を耳にします。今こそ、流行りでない視点でドル円(円弱)を考えてみる必要がありそうです。現在の日本は依然として経常収支21.4兆円の黒字大国(23年3月)ですが、その多くは過去の投資からの「アガリ」です。実はこの投資収益、あまり日本国内にキャッシュとして還流しておらず、キャッシュフロー(CF)での経常収支は、22年▲約10兆円、23年▲約1.3兆円の赤字です。つまりこの間、経常黒字でも円弱の時代になってきたと言えます。レガシイとも言える経常黒字の裏では、「新時代の赤字」が存在感を増しています。これはサービス収支(旅行・輸送・その他サ)に見られます。言わずとも旅行収支は海外から押し寄せるインバウンド旅行客で黒字、輸送・その他サは大幅赤字で、差し引きで23年のサービス収支は▲約3兆円の大赤字です。この「その他」のワード、馬鹿にはできません。

これこそ新時代の赤字の主役に台頭したデジタル関連への支出、つまり「デジタル赤字」です。例えば…マイクロソフトのOffice365やChat-GPT等のビジネス系、Apple、Amazonプライム、Netflix等のサブスクサービスへの課金です。さらに「その他」はこれだけに留まらず、最近やたらと多くなった印象の外資系コンサル会社への支払い、投資性の高い保険(日系生保による喫茶店販売保険=外貨建一時払保険)のリスク転嫁の為に海外へ支払う再保険料等も含まれます。特にデジタル赤字は価格決定権を海外企業に握られています。来月からAmazonプライム料金を値上げしますよ…と言われても、便利さを享受してしまった日本の消費者が、「高いなあ、じゃあ退会！」という選択は取りにくいかと。この構図と潮流を考えるだけでも、サービス収支しかも、円を外貨に換えて支払うというキャッシュフロー・ベースでの赤字継続は、今後も想像に難くないシナリオではないでしょうか？

そして、もう一つ忘れてはならない投資主体「家計」の円売りも、円弱を後押しする要因として無視できない存在で、24年通年で家計の円売りは10兆円前後に達する？とも推計されています。今秋退陣される岸田首相が提唱した新NISAの「投資枠拡大」は、日本株より海外株へと家計の資金が流れ出ることで、家計の円売り→円弱進行は「資産運用立国の代償だ」等と皮肉な表現をされながら、インフレから資産を自己防衛する賢い個人投資家が数多く誕生しました。※実は外国株投資ブームは2020年頃からです…



有識者は国として出来ることをいろいろ議論していますが、生活者である私たちは、「新時代の赤字」経済圏で弱い円を使って生活しているという事実認識は大切です。ドル円がいくらワカラナイですが…その影響度やアクションプランを考えることは価値ありです。

✍️ IFA(Independent Financial Advisor)本橋の視点より ✍️

共同通信社さま経由にて、各地方新聞紙面「ライフセミナー」欄に掲載コラム：2024年に光り輝く資産は…
以前(2020年3月頃)にも「金への投資」について、金融商品や現物としての投資形態や税金面での違いから
コラムにしましたが、当時の金価格は1500-1600ドル/トロイオンス！未だ色あせず輝き続ける資産でした～

Q. 最近「金」への投資が話題になりますが…

A. 2024年はオリンピック・パラリンピックイヤーです。アスリートの皆さんが目指すのは世界一の証である「金メダル」ですが、昨今は世界中の様々なプレーヤーから金(ゴールド)に熱い視線と資金が集まっています。

特に今年に入りドル建て金価格は1トロイオンス(約31.1g)あたり2400ドルを超え、史上最高値圏での推移となっています。 ※2024/08/17時点では、何と2500ドル/トロイオンスを超えています。

この現代ゴールドラッシュの主なプレーヤーの一つに、中国やロシアなど新興国の中央銀行の存在があります。世界一の経済大国である米国の基軸通貨ドルは、財政の悪化によってその信認が揺らぎ始める(輝きを失う)かも…という不安の高まりから、「無国籍通貨」として金の保有へと行動変化が目立っています。経済制裁としての米ドル資産凍結も、新興國中銀の金投資を助長したといえます。

さらに投資家というプレーヤーの資金も様々な動機や形態で金へと向かっています。世界各地で生じる紛争の地政学リスクに備える「安全資産の金」として、今後米国はFRBによる段階的な利下げが始まる金融環境の変化の裏側で、利息はつかないけれど、金の相対的な投資妙味は高まると考える長期投資家のマネーが向かい



つつあります。彼らの投資行動は金関連ETF(上場投資信託)への資金流入に現われています。有事の備えや資産の分散投資先といった様々な思惑マネーが向かう2024年の金はその輝きを増しています。(独立系ファイナンシャルアドバイザー 本橋竜一)

◆編集後記◆

気まぐれな「Mr.マーケット」には付き合わない！

7月末の日銀植田総裁の利上げ継続も？発言を機に、日米の株式市場が↓へ↑へと「大嵐」になりました…
ビビリ症機関投資家は、我先にとリスク資産を投げ売りし、急な株価下落や為替の変動でアテンションを引きたいメディアの「〇年ぶりの日経平均の下落幅」なる煽り報道に、思わずパニック売り衝動に駆られる方々もいたようです。そういう！！ニュースに付き合う必要は全くありません。まずは現実には何が起きていて、過去の同じような場面と比較、そして冷静にこの先を考えて行動… これだけでも資産運用の結果は全く違うハズ。

◆今後本通信をご希望されない方は、お手数ですがお知らせ下さいますようお願い致します◆

【発行者プロフィール】

本橋 竜一(もとはし りゅういち)、1974年4月19日生まれ。東京郊外八王子の高尾在住。
早稲田大学卒業後、横浜銀行で金融マンとして社会人をスタートしました。その後、国内
(あおぞら銀行、みずほFG、三菱UFJ)、外資系(スイスUBS)金融機関にて、約15年間に
渡ってプライベートバンキング(ご資産家のお客さま専用金融サービス)を経験し、
ファイナンシャルアドバイザーとして独立開業。家族は妻、娘、息子の4人。



趣味はエンジョイゴルフ(スコア3桁でも緑の芝で気分爽快！)と読書(ジャンル無差別:乱読・積読?)

お客さまに対する想い:人生に専属のファイナンシャルアドバイザーがいる安心感を提供したい…

本橋FαオフィスWEBサイトは と検索！ <https://www.pfa-withyourlife.jp/>
皆さまからのご感想・ご要望をどんどんお寄せください。

➡ 本橋携帯:090-7909-2111 メール:information@pfa-withyourlife.jp